



熊本県へき地医療医師の会のご案内



熊本県へき地医療医師の会事務局
熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会事務局



ごあいさつ



熊本県へき地医療医師の会
会長 春口 洋 賜

私は、このたび「熊本県へき地医療医師の会」会長の大役をお引き受けすることになりました。自治医大第一期生です。この会は、県内のへき地等を中心とした、地域住民に質の高い医療を提供し、その地域の保健、医療、福祉の発展に寄与することを目的として設置されました。新設された熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会（「開設者協議会」）と連携しながら、「医師の会」の立場で事業を行うことになります。構成メンバーは、開設者協議会に所属する医療機関に勤務する医師や会員の認める医師、へき地医療に関係ある医師となっています。

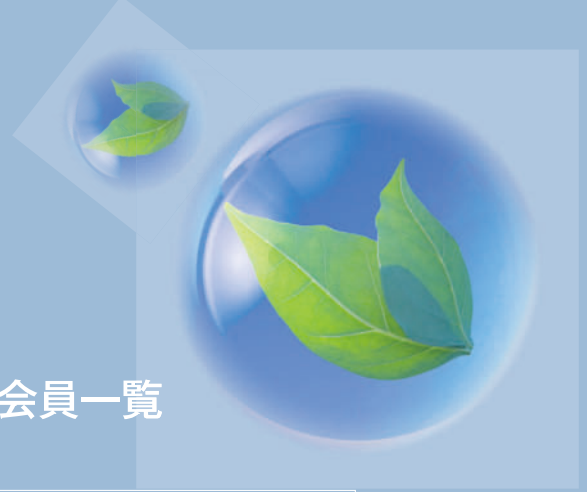
下記が主な事業になります。

- ① 所属会員の意見集約や異動に伴う調整
- ② へき地医療研修を行う医学生、研修医への積極的支援
- ③ 熊大地域医療システム学講座や地域医療振興協会熊本県支部・自治医科大学熊本県人会などと協力体制をとり、へき地医療のシステムづくりを進める

このような会の設置に至った（設置せざるを得なかった）背景には、熊本県の自治医大卒業生の義務明け後の県内定着率が全国ワースト1～2位という実状があったからです。新臨床研修医制度の影響で、へき地医療機関の医師数が減ってしまったことも関係していると思います。医師個人の奉仕の精神、自己犠牲の上に立った献身的なへき地医療は、もはや成り立たなくなっていました。

へき地の医療機関で独自に行う医師の招聘作戦には、地理的、あるいは環境的悪条件のため限界があることは確かです。場合によっては、ある一定期間へき地医療機関の勤務を義務づけるなど、強制力を持った規律を設けることも必要かもしれません。ただ、へき地医療機関自身も単に医師を募集するだけでなく、その地域の医療機関の魅力や特色をPRし、またターゲットにする医師を絞った募集方法を検討することも必要かもしれません。今回の「医師の会」設置を契機に医師本人や、家族、同僚が情熱を持ってへき地医療に取り組めるシステムの構築ができればと願っております。





熊本県へき地医療医師の会会員一覧

〈正会員〉	会 長	春口 洋賜
	副会長	濱崎 豊
	副会長	脇田 富雄
	監 事	石田 隼一
	監 事	遠竹 弘久
〈準会員〉	山都町包括医療センターそよう病院	竹本 隆博
	熊本県へき地医療支援機構	中本 弘作
	事務局：熊本大学医学部附属病院	黒田 豊
	球磨郡公立多良木病院	坂口 将文
	熊本赤十字病院	稲田 啓介
	上天草市立上天草総合病院	前田 幸佑
	八代市椎原診療所	三島 聡子
	山都町包括医療センターそよう病院	佐藤 啓
	那須南病院	古川 祥太郎
	球磨郡公立多良木病院	中山 明香里
	人吉総合病院	中山 剛
	天草市立河浦病院	前原 耕介
	小国公立病院	国友 耕太郎
	熊本赤十字病院	佐藤 智英
	熊本赤十字病院	下村 茉希

(敬称略)

今は自治医科大学卒業生ですが、出身大学は全く問いません。
へき地医療・地域医療に興味がある先生なら、どなたでも大歓迎です。



平成 25 年 8 月 17 日(土)に熊本市内のホテルにて熊本県へき地医療医師の会の総会を行いました。
正会員・準会員 14 名が参加し、設立の経緯や正会員の承認また今後の会の活動や運営などについても話し合いました。

第1回 熊本県へき地医療医師の会総会議事録

期日：平成25年8月17日(土) 場所：アークホテル熊本城前 参加者：14名

1. 議長選出：春口(公立多良木病院) 書記選出：遠竹(新和病院)
次回からは会長が選出する
2. へき地医療医師の会設立の経緯について：
黒田先生(熊大地域医療システム学講座)より説明
合わせて今後の地域医療システム学講座の方向について言及(スライドによるプレゼンテーション)
3. 会員登録について：今後会員数を増やす方向で検討する
 - ① 竹本先生(7期生)の正会員としての入会を出席者全員で了承
 - ② 自治卒で義務年限後医師の入会について：準会員
該当対象：県外勤務者
自治体医療機関以外の勤務医師
開業医師
 - ③ 義務年限内医師の入会について：準会員
 - ④ 自治卒以外の医師の入会について：正会員または準会員*② ③ ④事項に関しては今後継続検討予定
4. 医師の会の今後の活動、運営について
 - ① 研修会、講演会の企画：前田先生に企画依頼？
黒田先生から南郷先生の講演会開催を提案された
 - ② PR活動：ホームページの活用(メディアを介して)
 - ③ 県人会、地域医療振興協会との協働
 - ④ 日赤病院との連携：再研修病院の一つとして
 - ⑤ 7月27日に開催された講演会の内容紹介：中本先生からのプレゼンテーション
高知県へき地医療支援機構 澤田先生の講演について
5. 事務局からの伝達事項：利用してください 詳細は事務局または春口まで
 - 図書購入(DVD、ビデオなどを含む)申請
 - 学会研修旅費申請
6. 特記事項：意見、提案、その他
 - ① パンフレットや医師の会の活動内容などを定期的に県外の医師に送付する
 - ② 自治体医療機関に勤務していて、医局のローテーションとは無関係な医師への勧誘で会員数増加が見込める
 - ③ 日赤病院等の医療機関で再研修を行う場合のシミュレーションを色々と考える必要がある

また、親会である熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会では、医師の会に対して制度的、財政的に支援をしていただけることになりました。

医師の会運営に係る補助金のほか、学会等参加旅費及び参加費補助、書籍購入費(本、DVD等)補助、赴任旅費補助、また研修についても最大2年間の間は身分と給与等を保障してくれます。

また、勤務環境についても、熊本県のへき地医療を担う病院長の会が私たちを支援してくれてますので、即改善に繋がるものと信じております。



医師確保へ向け、へき地医療を担う自治体病院、開設市町村、県など、へき地医療・地域医療の存続を切望する者同士が思いを形にしたことは大きな一歩。医師不足、大都市偏在を根本的に解消するまでには至らないまでも、こうしたアクションの積み重ねがへき地医療・地域医療の存続には欠かせないと考えます。

熊本県のへき地医療を支える体制



熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会は、自治体や病院、関係機関と協力して「熊本県へき地医療医師の会」の先生方をサポートしていきます。

そして、いろいろなご要望については、可能な限りお答えして参ります。

私たちは、先生方が熊本県にしっかり根を下ろしていただきながら、へき地医療・地域医療に貢献していただけるように、精一杯ご支援をしていきたいと考えています。

ぜひ熊本県のへき地医療・地域医療につきまして、ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会 関係者一同





熊本県へき地医療医師の会は、共にへき地医療を支える仲間を求めています。
熊本県内のへき地や地域で働いてみたい先生、へき地医療・地域医療に興味がある先生、今は県外に出ているけど熊本に帰って地元で働いてみたいと考えてる先生、出身大学は全く問いません！同じ思いであれば、どなたでも大歓迎です。ぜひ、私たちと一緒に熊本でへき地医療・地域医療をやってみませんか。

熊本県の地域では、先生方の力を必要としています！



熊本県へき地医療医師の会事務局

熊本大学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座

TEL 096-373-5794

<http://www.taragihp.jp/hekichiiryuu/ishinokai.html>

熊本県へき地医療自治体病院開設者協議会事務局

(球磨郡公立多良木病院内)

TEL 0966-42-2560 E-mail info@taragihp.jp

<http://www.taragihp.jp/hekichiiryuu/>